

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22390448

研究課題名(和文) 現代社会が求める新たな保健師像と専門能力：自殺予防と地域・職域活性化支援を中心に

研究課題名(英文) Expected roles and competencies for public health nurses sought by the modern society

研究代表者

錦戸 典子 (NISHIKIDO, Noriko)

東海大学・健康科学部・教授

研究者番号：10172644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,900,000円、(間接経費) 3,270,000円

研究成果の概要(和文)：現代社会が求める保健師に必要な専門能力と育成方を明らかにすることを目的に、これまで研究が遅れている産業保健分野の保健師(産業保健師)を中心に検討した。一企業において産業保健師に求められる専門能力を明らかにするとともに、その向上を目指した育成プログラムを開発・試行し、実際に効果があることを検証した。また、より汎用的に産業保健師に必要な専門能力を明確化・構造化することを目指して、熟練産業保健師への個別インタビューならびにフォーカス・グループ・インタビュー調査を実施し、支援過程に沿った各場面において産業保健師として必要な専門能力の詳細を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The purposes of this study were to clarify the competencies for public health nurses who are sought by the modern society, and to develop the training programs for them. We have studied mainly on those for occupational health nurses (OHNs) because the study on OHNs had been rarely conducted. We examined the competency sought by the company which carries out collaborative investigation. We developed the training programs and demonstrated that it was effective. Moreover individual and group interviews to expert OHNs were conducted to elucidate common competencies of OHNs at each support process. We have clarified them in detail.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：保健師 産業保健師 専門能力 コンピテンシー 育成方策

## 1. 研究開始当初の背景

わが国では、自治体で働く保健師（以下、行政保健師）の専門能力に関する研究や保健師基礎教育における到達度目標に関する研究などの体系的な研究成果が報告されている一方、産業の場や労働者を対象に活動する保健師（以下、産業保健師）の専門能力に関する研究が遅れていた。海外では、アメリカを中心に研究が先行しているのに対し、わが国では海外文献の紹介・解説やメンタルヘルス対策など一部の職務遂行能力に関する研究報告に留まっており、産業保健師の専門能力や育成方法に関する重点的な学術研究を急ぐ必要性があった。

現代社会に求められる保健師として、地域全体への生涯にわたる健康支援活動を有機的に展開し、地域の健康危機を救える保健師を育成することが急務である。そのためには、働き盛り層の健康危機の救済に向けて近年急速にその社会的期待が高まりつつある産業保健師に必要な専門能力を明らかにして、行政保健師に関する既知見と比較・統合し、保健師全般の専門能力を系統的に整理するとともに、それらの能力育成のための段階的な育成ビジョンや、支援成果などを体系的かつ実証的に明らかにすることが重要かつ不可欠であると考え、本研究を企画した。

## 2. 研究の目的

近年の社会状況・ニーズを踏まえて、現代社会が求める産業保健師像とそのために必要な専門能力(行動基準)を、明らかにする。特に、近年の社会的経済不況下で増加傾向にある自殺の予防に関して、産業保健師による多分野・多機関と協働した職場のメンタルヘルス支援活動などを中心に、産業保健師としての支援活動に必要な専門能力について検討するとともに、職場ニーズの把握から事業の企画・実施・評価の一連の活動プロセスにおいて、発揮される保健師の専門能力について詳細に整理・分析する。

さらに、それらの専門能力の育成のための研修等の方策の検を行い、一部については実際に研修プログラムの開発・検証を試みる。

最終的には、行政保健師の専門能力に関する既存の研究成果との比較・統合により、保健師全般に求められるコアの専門能力と、行政や産業などの場で各々特に必要な専門能力、ならびにその前提として必要となる一連の資質・知識・技術についても明確化し、体系化・構造化することを目指す。

## 3. 研究の方法

行政保健師および産業保健師の専門能力とその育成方法についての先行研究に関する国内外の文献レビューを行い、保健師に求められる専門能力と育成方法に関する既存の知見、および今後更に検討が必要な課題を整理した上で、研究を開始した。

### (1) 一企業の産業保健師に求められる能力とその育成に関する実証研究

某企業と共同研究の形で、以下の研究を実施した。まず、同企業に勤める産業保健師に求められる役割とそのため能力を明確化するために、産業保健師自身に加えて、産業医、および産業保健師の上長にあたる人事労務担当者へのインタビュー調査を本人の同意を得て実施し、得られた逐語録を内容分析の手法に準じて質的に分析した。

次に、インタビュー調査の結果、明らかとなった最も期待されている能力である、職場ニーズをエビデンスに基づいて分析し、その結果に基づいて起案した事業計画を、上長である人事労務担当者に適切に提示・説明するための能力を育成・強化する研修プログラムを、研究メンバーならびに企業の統括保健師とで話し合いながら開発した。さらに、その研修プログラムを実際に試行して、研修前後の知識・スキルに関する自己評価得点(5件法)と比較した。前後比較の得点に統計的に有意な差があるか否かを、t法により、検定した。

### (2) 職場のメンタルヘルス対策支援を中心として、現代の産業保健師に求められる支援活動に必要な知識・技術に関する調査

職場のメンタルヘルス対策に関する新人～ベテランの産業保健師の知識・技術・学習環境を明らかにするために、先行研究ならびに数名の熟練産業保健師へのインタビュー結果に基づき作成した質問紙を用いた無記名式調査を実施した。

同様に、心理的職場環境改善や職場巡視に関する知識・技術に関する質問紙調査、および、がんに罹患した労働者に関する就労支援のためのコーディネーション技術に関するインタビュー調査等を実施した。

### (3) ニーズに基づいた支援活動を行うための産業保健師の専門能力の明確化

職場ニーズに基づいた支援活動を行うために、情報収集・アセスメント、事業計画立案、実施、評価の一連のプロセスにおける産業保健師の専門能力に関して、熟練保健師への個別インタビュー調査、ならびにフォーカス・グループ・インタビュー調査を行った。得られた結果を逐語録に起こして、内容分析の方法に準じた分析を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 一企業の産業保健師に求められる能力とその育成に関する実証研究

インタビュー調査の結果、産業保健師に求められる主な役割として、「労働者との信頼関係を構築して、社員自ら健康づくりができるような支援をする」、「多角的に情報を収集して、アセスメント、問題提起する」、「プロジェクトのマネジメントお

よび多職種間の協働体制を構築する」の3つに集約することができた。これらの役割を遂行するための専門能力のうち、特に、「根拠に基づいて情報収集・アセスメントして、事業計画を提言する」能力を強化する必要性があることが明らかとなり、それに焦点化した研修プログラムを開発した。具体的内容として、約半年間にわたる3ステップ構成とし、第1ステップとして「職場アセスメントの視点と具体的な実施方法」に関する半日の集合研修、第2ステップとして途中期間に適宜実施する2~3回の個別コンサルテーション、第3ステップとして初回研修から7か月後に「職場アセスメントに基づく事業提言」に関する1日半の集合研修を実施し、上長への事業提言場面のロールプレイとフィードバック、学びを共有するためのグループワーク、などを取り入れた実践的な参加型研修とした。その結果、研修前と比べて研修後に自己評価が有意に向上したコンピテンシー項目は、20項目中、「様々な情報からアセスメントし健康課題を抽出できる」「社員・職場の特性やニーズに基づく事業計画の立案ができる」「事業化が必要な項目について分かりやすく資料化できる」などの9項目であった。その他、有意ではないが改善傾向( $p < 0.1$ )が見られた項目は、「職場環境について情報を収集しアセスメントできる」などの4項目であった。本研修プログラムの効果が実証され、産業看護職にとって重要な職場アセスメントと事業提言に関するコンピテンシー向上に役立つ可能性が示唆された。本研究は一企業における検討であったため、今後は更に他企業への適用可能性を検討する予定である。

(2) 職場のメンタルヘルス対策支援を中心として、現代の産業保健師に求められる支援活動に必要な知識・技術に関する調査  
職場のメンタルヘルス対策支援に関連する知識・技術・学習環境等に関する質問紙調査を実施し、新人期およびそれ以降の産業保健師に関する知識・技術等の保有状況や困難感、およびそれらの関連を明らかにした。特に、新人期の産業保健師にとっては、労働者や職場上司・人事労務担当者等のコミュニケーションをとり信頼関係を結ぶところから困難感を感じており、個別事例への適切なアセスメントやコーディネーション等にも、十分な知識を持たないまま、対応しなければならない状況であることが示された。本研究により得られた知見に基づいて、今後の習熟度別の研修プログラムの構築などに活かしていくことが期待される。

同様に、職場の心理社会的職場環境改善や職場巡視に際して発揮されている産業保健師の専門能力や関連要因、およびその向上に必要な自己研鑽や学習環境を明らかにすることができた。また、がんに罹患した労働者やその他の身体的な働きにくさを有する労働者

者に対する産業保健師の支援やコーディネーションに焦点化した研究も実施し、その遂行に必要な知識・技術等に関する知見を整理することができた。

(3) ニーズに基づいた支援活動を行うための産業保健師の専門能力の明確化

個別およびグループインタビューの結果を統合することにより、職場ニーズの把握に向けた情報収集・アセスメント、企画、実施、評価にわたる一連のプロセスにおいて、産業保健師に必要な専門能力を詳細に整理することができた。特に、情報収集・アセスメントにおいては、労働者や関連部署との信頼関係構築を基盤に、多くの情報源を活用して多角的な情報を収集し、それらをすり合わせるなど吟味した上で、会社の経営状況や社会状況などを考慮し、最適なタイミングを図った上で、最もニーズに合った事業を企画・実施・評価するという、何段階にもわたる複雑な過程を経て適切に組み上げていく専門能力を明らかにすることができた。今後は、これらの専門能力の保有状況や、その育成方策の検討に向けて、質問紙調査を実施する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

石川真子、錦戸典子、新人期の産業看護職における職場のメンタルヘルス活動の実施状況、困難感、および知識・技術の保有感、産業衛生学雑誌、査読有、vol.56 no.1,2014, p1-15

豊田加奈子、錦戸典子、掛本知里、山崎恭子、三橋祐子、高橋孝子、産業看護職の役割に関する産業医・人事労務担当者・産業看護職の認識 - A社インタビュー調査の結果から -、健康開発、査読有、vol.17 no.4,2013, p53-61

望月麻衣、錦戸典子、医療機関における職場環境改善の介入評価研究の動向、産業精神保健、査読有 vol.20, no.4, 2012,p362-368

錦戸典子、産業看護職の特性を活かした参加型職場環境改善支援の進め方、産業看護、査読無 vol.4, no.6,2012, p35-39  
錦戸典子、労働者と家族を巡るメンタルヘルス支援ネットワークの再構築~分野や職種を越えた連携強化を目指して~、産業精神保健、査読有 vol.20, no.2,2012, p81-86,

錦戸典子、豊田加奈子、地域・職場における心の健康の現状と対策~連携・協働の強化に向けて、保健の科学、査読有、vol.54 no.5, 2012,p292-298

錦戸典子、産業看護職に期待されるチーム・コーディネーション 必要な能力と

その育成方策、産業看護、査読無、vol.3, no.5, 2011, p.33-38  
〔学会発表〕(計 13 件)  
錦戸典子、高橋孝子、山崎恭子、三橋祐子、朱膳寺さつき、榎悦子、清水めぐみ、「根拠に基づく職場アセスメントと事業提言」に焦点化した、産業看護職向け実践研修の開発と評価、第 87 回日本産業衛生学会(岡山)、産業衛生学雑誌, 56, 臨増号, . 2014  
平林早苗、高橋こずえ、錦戸典子、相模原市の地域・職域連携事業の取り組み～ネットワークづくりへの成果を中心に～、第 72 回日本公衆衛生学会(三重)、日本公衆衛生雑誌, 60, 10, 292. 2013  
清水めぐみ、錦戸典子、産業看護職による職場巡視のスキルの認識、第 86 回日本産業衛生学会(松山)、産業衛生学雑誌, 55, 臨増号, 423. 2013  
岡久ジュン、錦戸典子、がん罹患した労働者への支援において産業保健師が行うコーディネーション 復職後の支援に焦点を当てて、第 85 回日本産業衛生学会 産業衛生学雑誌, 55, 臨増号, 423. 2013  
齋藤とも子、錦戸典子、産業看護職による心理社会的職場環境改善の支援実態と関連するスキル、第 86 回日本産業衛生学会(松山)産業衛生学雑誌, 55, 臨増号, 343, 2013  
Noriko Nishikido, Satori Kakemoto, Kazuko Nishida, Quality management of Occupational Health Nursing Practice in Japan (シンポジスト)、ICOH SC JOINT CONFERENCE 2013(サンパウロ)  
Noriko Nishikido, Satori Kakemoto, Kyoko Yamasaki, Yuko Mitsuhashi, Etsuko Enoki, Satsuki Shuzenzi, Kanako Toyota, and Takako Takahashi、Evidence-based Development of a Training Program for Occupational Health Nurses in a Company、ICOH SC JOINT CONFERENCE 2013(サンパウロ)  
豊田加奈子、錦戸典子、山崎恭子、三橋祐子、掛本知里、高橋孝子、産業看護職の役割に関する関連多職種との認識、第 22 回日本産業衛生学会産業医・産業看護全国協議会  
Noriko Nishikido, Yuko Mitsuhashi, Kanako Toyota, Jun Okahisa, Mai Mochizuki, Efforts and skills for the collaboration and coordination activities among Japanese occupational health nurses、The 6th International Conference for Inter-professional Education and Collaborative Practice(神戸)  
錦戸典子、岡久ジュン、三橋祐子、豊田加奈子、松木秀明、白石知子、稗田里香、木ノ上高章、地域保健との連携に関する

産業看護職の認識と、連携推進に必要な環境整備、第 70 回日本公衆衛生学会、2011 年 10 月 21 日、秋田、アトリエ  
錦戸典子、山崎晶子、三橋祐子、松木秀明、稗田里香、木ノ上高章、産業看護職による他職種・他機関との連携の現状と今後の推進方策(第 2 報) - 連携によるメリットと推進方策 -、第 84 回日本産業衛生学会、2011 年 5 月 19 日、東京、ホテルアジュール竹芝  
山崎晶子、錦戸典子、三橋祐子、松木秀明、稗田里香、木ノ上高章、産業看護職による他職種・他機関との連携の現状と今後の推進方策(第 1 報) - 連携の実施状況と関連要因、第 84 回日本産業衛生学会、2011 年 5 月 19 日、東京都立産業貿易センター  
錦戸典子、シンポジウム「産業保健職とマネジメントスキル」 産業保健専門職に必要なマネジメントスキルとその育成方策 ~ 産業看護の立場から ~、第 84 回日本産業衛生学会、2011 年 5 月 19 日、東京・ホテルアジュール竹芝

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

錦戸典子(NISHIKIDO, Noriko)  
東海大学・健康科学部・教授  
研究者番号: 1 0 1 7 2 6 4 4

### (2) 研究分担者

山崎恭子(YAMASAKI, Kyoko)  
東海大学・健康科学部・准教授  
研究者番号: 7 0 3 4 7 2 5 1

三橋祐子(MITSUHASHI, Yuko)  
東海大学・健康科学部・助教  
研究者番号: 1 0 5 8 0 8 1 3

白石知子(SHIRAISHI, Tomoko)  
中部大学・生命健康科学部・准教授  
研究者番号: 6 0 2 7 5 1 5 4

掛本知里(KAKEMOTO, Satori)  
東京有明医療大学・看護学部・教授  
研究者番号: 6 0 2 5 4 5 6 2